



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉 「愛は忍耐強い」

聖書(第1コリント書13章4節)

牧師 河合裕志

パウロはここで愛の特色について上記の言葉に続けて次のように述べる。少し長いけれどこれを記せば……「愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」。

以上15個程あげている。ここでは冒頭の「愛は忍耐強い」について考えてみたい。忍耐というと「苦しみ、つらさ、怒りなどをじっとがまんすること」を言うのだろう。これはしかしなかなか出来ない相談。ついに頭に血がのぼって相手に怒りをぶつけるのが私達。

妻の態度、夫の態度に腹を立てる。口げんかとなり時に腕をふり上げる。あるいはもう互いに口もきかなくなる。場合によっては離婚に。どうしたらいいのだろう。そこに忍耐力があれば、じっとがまんでければ。どうやって。①自分の側に落度がないか反省してみる。それを棚に上げて相手を一方的に責めていないか。②自分に責任があればこれを認めてゆるしを願う。③相手がゆるしてほしいと言ってきたら、これをゆるす。いつまでもネチネチしていない。

頭に血がのぼることは親と子の間でも起こる。上司と部下の間でも起こる。およそ

人間の集まる場所ではどこでも起こる。そんな時①②③を覚えることが出来れば幸い。しかし実際問題なかなかそうは行かないことが少ないかも。

- ④自分はどこまでも正しいと信じている。
- ⑤自分の責任を認めることは弱さだと思う。
- ⑥相手がゆるしてほしいと乞うて来たらゆるしてあげてもよいと考える。

いやはや、なかなかやっかい。突破口はある? こんな言葉がある。「主の忍耐深さを、救いと考えなさい」(第2ペトロ3章15節)。主キリストは私達に忍耐深くあるよ。そのお陰で私達はなお生かされているんだよ。罪の深い私達、人を傷つけてやまない私達、多くの失敗と過ちを重ねている私達。キリストからすれば唾棄されるべき私達。そんな私達が今日も生きている。そこには私達一人一人に対するキリストの忍耐強さがある。言いかえれば愛がある。更に言いかえればゆるしがあるということ。

まずキリストが私達に忍耐強く対処してくれている。このことに気づいて私達も周りの人に忍耐強く対処出来れば幸い。出来るのでは。それこそは愛。相手を生かし自分も生かす。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時